

令和4年度第7回 稲武地域まちづくり推進協議会 議事録

| | |
|-----|----------------------------|
| 日 時 | 令和4年10月25日（火）午後6時00分～7時20分 |
| 会 場 | 稲武支所2階 団体会議室 |

1 あいさつ

○大内会長

先日、稲武交流館のふれあいまつりが開催され、大盛況だったと聞いた。今後は、10月29日（土曜）から稲武もみじまつりが始まり、11月6日（日曜）にはタカドヤ湿地もみじまつり、いよいよ11月11日（金曜）には稲武地区でWRCのレースが開催される。天候に恵まれることを期待したい。では、本日も慎重審議をお願いしたい。

○三江顧問

市議会議員になってから18年目を迎えたが、ここへ来て、うれしい話が続いた。1つは、小田木人形座が150年ぶりに復活したことである。コロナ禍で伝統文化の存続が難しくなっている中で大きな出来事である。もう1つは、10増10減の衆議院小選挙区の区割り改定法案が10月25日に衆議院に提出された。国会で成立すれば、稲武地区の悲願であった愛知14区から愛知11区に変更される。

また、WRCに関しては、NPO稲武まちづくり協議会の取組がまさにラリーを生かしたまちづくりとしてしっかり取り組まれているので、ありがたく思う。

2 協議事項について

(1) 各団体からの現在の取組、課題などの発表について

① J A 稲武営農センター

上田委員；

- ・ J A では、地域農業の活性化と持続可能な農業を実現することを目指し、農業所得の向上と地域農業振興計画の推進に向けた取組を進めている。
- ・ 鳥獣害対策では、農家への助成を行っているほか、監視カメラ付き捕獲檻や簡易捕獲檻で捕獲をしている。販売事業では、量販店での P R 販売や独自ルートを通じた販売を行っている。なお、稲武地区産のコメについては、出荷量の7割をどんぐり横丁と契約し販売している。また、ジャガイモやネギなどは、学校給食へ提供している。
- ・ コロナ禍における農家支援については、国、県、J A から各種助成を行っている

- る。
- ・令和4年の水稻の作柄及び出荷量は、概ね例年通りの生育となった。
 - ・営農部門の課題としては、耕作放棄地の活用方法や農家所得の向上に関する課題がある。また、特に近年の水稻栽培については、雑草や害虫、病気が問題になっている。

<質疑応答>

古橋真人委員；稲武地区は耕作地が少ないと聞いたが、収穫を高密度にする取組はできないか？JAから農家に提案することは難しいだろうか？

⇒上田委員；作物によっては可能だと思う。水稻栽培はまだ可能だと認識しているが、まずは農地を守ることに力点を入れていきたいと考えている。

石橋委員；農家に渡されたミネアサヒの苗の数と実際の出荷量の割合はどのようか？

⇒上田委員；ざっくり言うと、1割ぐらいかと思う。

⇒石橋委員；では、残り9割が縁故米と言えるだろうか。

横田委員；担い手確保のポイントは何か？

⇒上田委員；JA自体が担い手（サポーター）になろうとして、現在、職員の研修を進めている。3年後を目途に、水稻を中心に耕作を始めることができるように計画中である。

山田副会長；獣害被害は、農家のやる気を失わせることになってしまう。監視カメラ付き捕獲檻は個人に対して貸出は可能か？

⇒上田委員；簡易捕獲檻は個人貸出が可能であるが、監視カメラ付き捕獲檻は個人には難しい。通常は協議会に貸出しをしている。

山田副会長；今年はイノシシが増えているように思う。

大内会長；ハクビシンの状況は？

⇒大島委員；アナグマが増えており、ハクビシンは減っているのではないか。

②古橋会

古橋真人委員；

- ・元々、1717年に古橋源六郎義次が岐阜県の中津川から稲武町に移住して、酒造業や味噌醸造業、金融業を家業としたところから始まり、これまで、教育や社会福祉、殖産興業に尽力し、奨学施設や保育園の運営などを行ってきた。また、文化財事業として、約4万点の古文書の管理や、養蚕製糸文化伝承事業、不動産・地方創生事業として建物のリノベーションによるカフェや泊まれる家具屋の運営に携わってきた。
- ・近年では、「ファイティングポーズを取りながら撤退・お片付け」として、地

域や社会に貢献しながら、持続可能な経営に向けて、各種事業の見直しを行っている。稲武中学校卒業生への給付型奨学金制度は令和5年度で廃止する。また、稲武中学校の支援を目的とした端末ソフト使用料・無線LAN使用料の負担は令和2年度で打ち切った。

- ・文化財事業として、総計約5万点の古文書のデータベース化に目途がたちつつあり、将来公開予定である。新出資料が数万点あるため、若手研究者にとっては宝の山と言えるので、知り合いがいたらぜひ紹介をお願いしたい。
- ・養蚕製糸文化事業は、担い手と資金の確保が課題である。資金確保のため、今冬に稲武シルクを配合した入浴剤を販売予定である。
- ・将来の目標としては、ブランドを磨き、ITサービスを活用した経済循環を生み出していきたい。また、クリニックの後継者が現時点ではいないため、中山間地域の医療・福祉についてどのように関わっていけるのかを模索していきたい。そして、古橋家住宅母屋については、他のビジネスプレイヤーと一緒に、例えば、1棟貸しの高級宿泊施設のように新たな活用を図っていきたい。

<質疑応答>

中村委員；社協でも応援制度を設けているため確認したいが、奨学金の基準は学校成績によるものか？

⇒古橋真人委員；学校成績が基準ではなく、育英財団の基準に基づいている。

大内会長；観光面の効果もあるため、古橋懐古館の資料を何らかの形で公開できるとよい。豊田市で新博物館を建設中でもあるし、稲武郷土資料館での展示は難しいか。

⇒古橋真人委員；非公式にはなるが、個別に案内することは可能なので、もし資料閲覧等の問合せがあれば連絡がほしい。今のところは、新博物館との関係はない。

次回は、どんぐりの里いなぐ、オープンイナブ実行委員会が発表する。

3 各種話題提供について

(1) ワーキング部会、各委員からの報告

大内会長；10月29日（土曜）から、稲武もみじまつりを開催する。今年もシャトルバスを走らせる。11月6日（日曜）には、タカドヤ湿地もみじまつりが開催される。

事務局（加藤主査）；10月2日（日曜）に開催されたシロキヤラリーについて報告したい。レース関係ではどんぐり工房前の交通結節点などを使用し、スペ

シャルステージは稲武地区内市道・林道、設楽町地内林道が使用された。道の駅イベント広場では、パブリックビューイングを行い、ラリーの生中継や全日本ラリードライバーである鮫島選手によるトークショー、地元飲食店での食レポ中継などを行った。また、稲武商工会館前でのリエゾン区間での選手応援のほか、古橋懐古館・稲武町自治区駐車場でのクラシックカー展示、そして、NPO稲武まちづくり協議会が地元店舗と連携した「いなぶ Rally 弁当」の販売を行った。

当日は39台が競技に参加し、イベント広場来場者が1,181人、リエゾン応援者が200人、クラシックカー見学者が100人の実績であった。三江副会長；一部補足したい。道の駅イベント広場での大型ビジョン設置は、稲武地区のPRにつながるとして、ひまわりネットワークの協力のもと実施できた。

また、地元への経済効果を生み出すことが目指すところであり、今回、300食の「いなぶ Rally 弁当」の販売ができた。これまでは、飲食関係は豊根村で行われていたが、今回、稲武に引っ張ることができた。宿泊についても、これまでは豊根村がメインであったが、多くの方が稲武地区内で宿泊された。また、稲武商工会青年部が実施している「どこでもいなぶ」の商品をラリー参加者の景品に活用した。

<質疑応答>

鈴木委員；ラリーの観戦などで、稲武以外の方が稲武地区に来ることになった件数などは把握しているか？

⇒三江副会長；観戦のため来られた人は一部にいた。ただ、宿泊は関係者であり、観戦エリアを設けなかったこともあるので、一般の観戦者は限定的だったと思う。

事務局（加藤主査）；続いて、WRC開催に伴う通行規制等について説明したい。稲武地区では11月11日（金曜）に競技が開催され、通行規制が発生するため、ご理解とご協力をお願いしたい。林道小田木本洞線等については、11月10日（木曜）午後8時から11日（金曜）午後5時30分までが規制される。また、夏焼グラウンドについては、11日（金曜）午前3時から午後8時までが規制される。

また、リエゾン区間については、市道稲武線の稲武支所前交差点から下ハリ原交差点を通過し市道稲武針原線を通って国道153号までとなる。時間は1回目が午前8時30分ごろから、2回目が午後3時ごろからWRCカーが通過する予定である。また、道の駅イベント広場で、大型ビジョンによるパブ

リックビューイング等を行う予定であり、多目的広場はキッチンカーの出店がある。

三江副会長；一部補足したい。

- ・11月初旬に案内チラシができあがるので、新聞折込みとホームページ等で周知していきたい。
- ・黒田の観戦エリア内で、出店を行う。稲武商工会に依頼して、飲食と公式グッズの販売を行う。
- ・道の駅イベント広場では、大型ビジョンを設置してラリーの生中継を行う。また、デモカーの展示や公式グッズの販売を行う。
- ・多目的広場でのキッチンカーの出店の件であるが、平日開催であり販売予測が難しいので、地区外からの出店とする。
- ・リエゾンについては、地元の皆さんには午後3時からの部に参加してほしいと考えている。また、ラリーカーはかなり大きな音が出るようなので、自分達も現場に入り警戒する。
- ・とにかく稲武地区内にお金が落ちるような取組ができればと考えている。今回、大型ビジョンを稲武に持ってくることができ、また、稲武地区内の各店舗で使えるような金券を配布することができた。

<質疑応答>

山田副会長；NPO稲武まちづくり協議会の調整のおかげで、稲武地区内で使用できる金券の配布が実現できたので、商工会の会長としてお礼したい。

⇒三江副会長；来年は、稲武地区内での競技日程が土日になるように働きかけをしていきたい。他地区に負けないようにしていきたい。

大内会長；給油所はどこに設置されるか？

⇒事務局（加藤主査）；高校跡地である。

古橋久三委員；開催当日の国道153号の混雑状況はどうなるのだろうか。以前、北海道でWRCが開催された際は大変な混雑になったと聞いたことがある。民間事業者の通行に支障が出て困る。

⇒事務局（加藤主査）；観戦者がどれくらい来るかによるところがある。

⇒鈴木委員；人が来なければ来ないで文句は出るし、来たら来たで色々と課題が出てくる。どちらが正解ということはなく、予測ができないということなのだろうと思う。ただ、渋滞対策は特に何もやってないという理解をしておけばいいのか。

⇒杉山委員；渋滞予測やその対策については、稲武支所まで情報が下りてきてない状況である。

別件であるが、ラリーカーはかなりの音が出るという話があったが、主催者側では、SDGsがレギュレーションに入っているようで、ハイブリッドエンジンを積んでおり、リエゾンではモーターで走行する可能性がある。そのため、むしろ音が小さくなることが予想される。また、リエゾンに関しては、シロキヤラリーの際、30km規制に関わらず、ラリーカーの速度が出すぎていたとのことで、WRCの際は白バイが先導するという話がある。

古橋久三委員；先ほどから説明の中で、道の駅のイベント広場について、大屋根広場だとか言われているが、「グリッピーのぼうし」と名付けられたはずである。どんぐりの里いなぶの社長からも、訂正の発言があっただけで済ませたい。

⇒杉山委員；条例上の正式名称は「イベント広場」であり、「グリッピーのぼうし」は愛称であるが、道の駅の啓発物でも「グリッピーのぼうし」を使用しており、比較的どんぐりの里いなぶでは使用頻度が高くなっている。

⇒佐藤委員；もみじまつりのチラシでも、いなぶ観光協会さんでは「グリッピーのぼうし」を使用いただいている。

佐藤委員；鹿肉とミネアサヒを使用した「ジバーグ」を10月29日（土曜）から販売する。また、10月24日（月曜）に、NHKの番組「まるっと！」でどんぐりの里いなぶが放映されたおかげで、本日（10月25日）は、お米とロースト鹿丼の販売状況が良くなっていることを紹介したい。

古橋真人委員；10月29日（土曜）に、稲武の繭を使ったランタンを作る「夜のまゆさんぽ」のイベントを実施する。また、10月30日（日曜）には、稲武地区で起業した2人によるロボコンイベントも行われる。

山田副会長；9月24日（土曜）に、小田木人形座の旗揚げ公演を開催できた。ご協力いただいた皆さんにお礼申し上げます。準備会を立ち上げてから10年かかった。今後の10年間で、後継者育成、資金面の問題を解決していきたい。

⇒鈴木委員；小田木町の農村舞台の建替えが決まったと聞いたが本当か？市の文化振興財団が支援するのであれば、同時に古橋会も支援されるとよい。

⇒山田副会長；何も決まっていない。ただ、今後、豊田市などに支援をいただけるように努力はしていきたい。

4 次回開催日

令和4年11月22日（火曜）午後6時～ at 稲武支所団体会議室

<以 上>